



令和2年12月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

令和2年7月31日

上場会社名 株式会社sMedio

上場取引所 東

コード番号 3913 URL <https://www.smedio.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 岩本 定則

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営企画室長 (氏名) 北埜 弘剛

TEL 03-6262-8660

四半期報告書提出予定日 令和2年8月3日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 令和2年12月期第2四半期の連結業績(令和2年1月1日～令和2年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2年12月期第2四半期	482	10.2	46		46		24	
元年12月期第2四半期	437	18.1	69		68		70	

(注) 包括利益 2年12月期第2四半期 21百万円 (%) 元年12月期第2四半期 72百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2年12月期第2四半期	12.70	12.70
元年12月期第2四半期	37.56	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2年12月期第2四半期	1,279	1,122	87.7	582.49
元年12月期	1,222	1,095	89.6	571.52

(参考) 自己資本 2年12月期第2四半期 1,122百万円 元年12月期 1,095百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
元年12月期		0.00		0.00	0.00
2年12月期		0.00			
2年12月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 令和2年12月期の連結業績予想(令和2年1月1日～令和2年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,002	16.3	24		24		10		5.35

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 有
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2年12月期2Q	2,038,121 株	元年12月期	2,038,121 株
期末自己株式数	2年12月期2Q	110,892 株	元年12月期	120,892 株
期中平均株式数(四半期累計)	2年12月期2Q	1,920,562 株	元年12月期2Q	1,869,965 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10
(セグメント情報等)	10
(追加情報)	10
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

① 売上高の分析

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染が世界中に拡大するにつれ、世界各国が人の移動に制限を加え、経済活動が著しく縮小した影響が、2月以降継続しており、各国政府の景気対策が大規模に打ち出されていますが、実体経済の悪化や先行きの景況感の著しい悪化につながり、先行きが見通せない状態となっています。

(新型コロナウイルス感染症の影響について)

緊急事態宣言が解除された5月下旬以降、新型コロナウイルス感染症による影響は、徐々に、小さくなっているものと考えられますが、感染拡大の第2波が来ることも考えられており、その収束時期を見込むことは困難であります。

当社グループの業績への影響では、当第1四半期連結会計期間(1～3月)は、感染拡大が始まる前の売上が順調であったことで、直接的な影響はほとんどなかったと考えております。

続く、当第2四半期連結会計期間(4～6月)では、日本で緊急事態宣言が出される等、経済活動への影響が著しく大きくなる中で、当社グループは、在宅勤務等の対応で開発を継続しておりましたが、得意先も在宅勤務を導入していることなどで、案件の時期や規模の見直し、商談の決定スピードが遅れる等の影響が一部に見られました。

経済活動全般は、7月以降に回復の途につくと見込んでおりますが、当社グループの事業活動への影響は、当第2四半期連結累計期間(1～6月)中の事業活動の結果に依存する割合が多い当第3四半期連結会計期間(7～9月)が最も厳しくなると見込み、当第4四半期連結会計期間(10～12月)には、徐々に回復していくことを見込んでおります。

このような環境の中、国内で5G(第5世代移動通信システム)サービスが開始され、IoT(モノのインターネット化)、AI(人工知能)、ビッグデータ、VR(仮想現実)、AR(拡張現実)の利用場面の拡大が見込まれております。

当社がミッションとしている、デジタルトランスフォーメーションが実現される環境が、より一層整ってきた中で、当社は、引き続き、IoTが重要な技術であるとの認識に立ち、事業を展開してまいります。

当社の事業は、技術の特徴で大きく分けると、デジタル家電組込みソフトウェア事業、映像AI解析・IoTソフトウェア事業、セキュリティ&プライバシー事業の3つに分けられます。

(デジタル家電組込みソフトウェア事業)・・・当社が主体

Blu-ray[™]再生ソフトウェアや高解像度(4K/8K)画像処理技術を基盤とした事業になります。当事業は、ロイヤリティ収入を主体としているため、Blu-ray[™]などを再生するデジタル家電機器(TV、Blu-ray[™]レコーダー、PCなど)の出荷台数に影響を受けます。

新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、在宅勤務やテレワークの導入が進んだことで、国内のデジタル家電機器の出荷台数に回復傾向が見られ、前連結会計年度に取り組んで実現した当社ソフトウェアを搭載する製品種類の拡大による効果で、当社のロイヤリティ収入は回復してきつつあります。

(映像AI解析・IoTソフトウェア事業)・・・当社が主体

映像解析・分析AIエンジンとIoT技術を組み合わせたエンドツーエンドのBtoB向けのソリューションを提供している事業になります。

当社は、建設現場における課題を解決するソリューション提供に特化して、事業を推進しております。

(セキュリティ&プライバシー事業)・・・タオソフトウェア(株)および(株)情報スペースが主体

Android[™]のセキュリティ脆弱性診断やBLE(Bluetooth[®] Low Energy)を使った位置情報ソリューションに関する開発収入、データ移行・バックアップアプリ(JSバックアップ)に関するロイヤリティ収入(月額課金サービス収入を含む)を中心とした事業であります。開発収入からロイヤリティ収入への転換および月額課金サービス収入の育成は、一定程度、進捗しており、今後も、引き続き、推進してまいります。

当社のロイヤリティ収入は、主に四半期毎に計上され、当第1四半期連結会計期間（1～3月）においては、大部分が1月度に計上されており、時期的に、新型コロナウイルスの感染拡大による悪影響は小さかったと考えられ、当第2四半期連結会計期間（4～6月）においては、悪影響が見られましたが、前連結会計年度から取り組んできました当社ソフトウェアを搭載する製品種類の拡大による底上げが寄与して、前年同四半期（1～6月）比21百万円の増収となりました。

また、当第1四半期連結会計期間（1～3月）の受託開発収入は、新型コロナウイルスの感染拡大による影響が顕著になる前から開発を進めていた案件の納品が順調に進み、また、当第2四半期連結会計期間（4～6月）の受託開発収入は、新型コロナウイルス対策のために、得意先でも在宅勤務が進み、開発スケジュールが遅れた案件も見られましたが、前年同四半期（1～6月）比32百万円の増収となりました。

この結果、当社グループ全体としては、売上高は482百万円（前年同四半期比10.2%増）となりました。
形態別売上高は、下表のとおりであります。

（単位：百万円未満切捨て）

形態別売上高	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間	増減	増減率(%)
ロイヤリティ収入	304	326	21	7.0
受託開発収入	103	136	32	31.4
保守・サポート収入	29	20	△9	△32.0
合計	437	482	44	10.2

② 販売費及び一般管理費、営業利益の分析

当第2四半期連結累計期間における販売費及び一般管理費は231百万円（前年同四半期比5.4%減）、営業利益は46百万円（前年同四半期は69百万円の営業損失）となりました。

新型コロナウイルスの感染拡大により、人との接触の機会を減らすため、出張自粛や飲食の機会が減少したこととで、販売費及び一般管理費は減少しております。

③ 営業外損益、経常利益の分析

当第2四半期連結累計期間における営業外収益は、助成金収入を計上しましたが、為替差益がなくなったことなどで0百万円（前年同四半期比50.7%減）となる一方、営業外費用は、前連結会計年度中に借入金を全額約定返済したことで支払利息負担はなくなりましたが、為替差損を計上したことで0百万円（同111.7%増）となりました。その結果、経常利益は46百万円（前年同四半期は68百万円の経常損失）となりました。

④ 親会社株主に帰属する四半期純利益の分析

当第2四半期連結累計期間における親会社株主に帰属する四半期純利益は24百万円（前年同四半期は70百万円の純損失）となりました。

（単位：百万円未満切捨て）

	前第2四半期連結累計期間	当第2四半期連結累計期間	増減	
売上高	437	482	44	
営業利益又は営業損失（△）	△69	46	116	
経常利益又は経常損失（△）	△68	46	115	
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△70	24	94	

（2）財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における資産・負債及び純資産の状況とそれらの要因は次のとおりです。

① 流動資産

当第2四半期連結会計期間末の流動資産は1,179百万円であり、前連結会計年度末と比べ78百万円増加しました。これは、ライセンス費用の払い出し等により原材料が38百万円減少した半面、現預金が152百万円増加したことによるものであります。

② 固定資産

当第2四半期連結会計期間末の固定資産は100百万円であり、前連結会計年度末と比べ20百万円減少しました。これは、主に定期償却によりのれんが12百万円減少したことによるものであります。

③ 流動負債

当第2四半期連結会計期間末の流動負債は147百万円であり、前連結会計年度末と比べ29百万円増加しました。これは、利益を計上したことによる未払法人税等が9百万円、賞与引当金が8百万円増加したことによるものであります。

④ 固定負債

当第2四半期連結会計期間末の固定負債は9百万円であり、前連結会計年度末と比べ1百万円増加しました。これは、福岡オフィスを移転したことに伴い、資産除去債務が0百万円増加したことによるものであります。

⑤ 純資産

当第2四半期連結会計期間末における純資産の合計は1,122百万円であり、前連結会計年度末と比べ26百万円増加しました。これは、主に親会社株主に帰属する四半期純利益24百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、令和2年2月7日に公表いたしました令和2年12月期通期の連結業績予想（以下、「連結業績予想」）に変更はありません。

	令和2年1～3月 (実績)	令和2年4～6月 (実績)	令和2年1～6月 (実績)	令和2年1～12月 (予想)
売上高(百万円)	266	216	482	1,002
営業利益(百万円)	37	9	46	24

【当第1四半期連結会計期間（1～3月）】

大半のロイヤリティ収入が、新型コロナウイルス感染拡大が始まる前の1月度に計上されており、時期的に、新型コロナウイルスの感染拡大による悪影響は小さかったと考えられ、また、売上計上が前倒しとなった開発案件があったこと等で、売上高は266百万円と高水準でありました。新型コロナウイルス感染拡大により、対面での打ち合わせ機会減少といった影響があると同時に、経費の支出が抑えられました。

結果、当第1四半期連結会計期間（1～3月）は、売上高の上振れと経費の下振れ（いずれも計画比）が同時に生じたことで、営業利益以下、各段階利益は、そろって黒字を計上しました。

【当第2四半期連結会計期間（4～6月）】

計画で見込んでいた新規のロイヤリティ案件がなくなったことや既存のロイヤリティ収入も下振れたことでロイヤリティ収入が計画を下回り、また、開発案件の一部が第1四半期連結会計期間（1～3月）に計上されていたことや開発時期・規模の見直しが一部の案件で発生した影響もあり、開発収入も計画をやや下回ったことで、売上高は216百万円と低調な結果となりました。他方、経費の支出は、第1四半期連結会計期間（1～3月）に引き続き、抑えられました。

結果、当第2四半期連結会計期間（4～6月）は、売上高の下振れ（計画比）がありましたが、経費の下振れ（いずれも計画比）の影響が上回り、営業利益以下、各段階利益は、そろって計画を上回る黒字を計上しました。

【第3四半期連結会計期間（7～9月）以降】

当第2四半期連結会計期間（4～6月）は、日本国内で緊急事態宣言が出される（※5月下旬に解除）等、新型コロナウイルス感染拡大の影響が、現時点では最も大きかった期間になると思われませんが、当該期間において、既存顧客や潜在顧客との対面の打ち合わせの機会が減少したことは、第3四半期連結会計期間（7～9月）以降の新規案件の獲得に影響を与える可能性があります。ロイヤリティ収入に関しても、7月、8月に大きな需要が期待できた4Kテレビ市場は、需要の盛り上がりには欠ける懸念が残ります。

新型コロナウイルス感染症が再び拡大する恐れがある中、今年2月以降の営業活動の制約や得意先の事業環境の変化の影響が現れ出す第3四半期連結会計期間（7～9月）の売上高は、当第2四半期連結会計期間（4～6月）を上

回ることは厳しいと見込みつつも、将来の受注獲得のためにも、感染拡大防止に留意をしつつ、可能な範囲での営業活動を再開しており、経費の支出は第2四半期連結会計期間（4～6月）までのような抑制にはならない見込みであります。

第2四半期累計期間（1～6月）の営業利益以下、各段階利益は、通期業績予想の数値を超えておりますが、第3四半期連結会計期間（7～9月）の業績の不確実性が高いため、通期業績予想の見直しはしておりません。

【新型コロナウイルス感染症の影響に関する前提】

新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するために導入されている世界各国での規制による影響およびそれに伴う景況感の悪化等の間接的な影響には不確実性がありますが、当社事業への関連特需等は見込まれず、第3四半期連結会計期間（7～9月）以降にも、得意先企業での開発スケジュールの後ろ倒しや予算削減による影響が若干出てくるものと考えております。

開発体制に関しましては、国内（東京都、福岡県、岡山県）の一部開発拠点では、出勤と在宅勤務を組み合わせた体制での開発業務を行っており、中国・上海の開発拠点では、通常通りの業務を行っております。当社グループの開発業務は、今後、通常よりも若干のスピードダウンが発生するのは不可避ではありますが、開発業務が停止する等といった重大な事態にはならないと考えております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和元年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (令和2年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	631,413	783,563
売掛金	48,916	29,085
仕掛品	21,172	17,051
原材料及び貯蔵品	374,858	336,409
その他	25,709	13,969
貸倒引当金	△715	△715
流動資産合計	1,101,355	1,179,364
固定資産		
有形固定資産	22,188	22,508
無形固定資産		
のれん	42,726	29,887
その他	15,628	14,074
無形固定資産合計	58,355	43,961
投資その他の資産		
繰延税金資産	16,765	9,623
その他	23,434	24,406
投資その他の資産合計	40,200	34,030
固定資産合計	120,744	100,501
資産合計	1,222,099	1,279,865

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和元年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (令和2年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	20,166	7,918
未払法人税等	7,403	17,171
前受収益	14,268	16,126
賞与引当金	2,280	10,981
その他	74,229	95,768
流動負債合計	118,347	147,965
固定負債		
資産除去債務	4,170	5,067
繰延税金負債	3,845	4,236
固定負債合計	8,015	9,304
負債合計	126,363	157,270
純資産の部		
株主資本		
資本金	509,769	509,769
資本剰余金	665,911	653,201
利益剰余金	134,361	158,753
自己株式	△219,572	△201,412
株主資本合計	1,090,470	1,120,312
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	△269	△1,000
為替換算調整勘定	5,534	3,283
その他の包括利益累計額合計	5,265	2,282
純資産合計	1,095,735	1,122,595
負債純資産合計	1,222,099	1,279,865

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成31年1月1日 至令和元年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自令和2年1月1日 至令和2年6月30日)
売上高	437,718	482,355
売上原価	262,362	204,077
売上総利益	175,355	278,277
販売費及び一般管理費	244,845	231,451
営業利益又は営業損失(△)	△69,489	46,826
営業外収益		
受取利息	126	86
為替差益	317	-
助成金収入	840	566
その他	48	3
営業外収益合計	1,332	657
営業外費用		
支払利息	284	-
為替差損	-	602
営業外費用合計	284	602
経常利益又は経常損失(△)	△68,442	46,880
特別損失		
固定資産除却損	-	1,417
特別損失合計	-	1,417
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△68,442	45,462
法人税等	1,795	21,070
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△70,237	24,392
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△70,237	24,392

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成31年1月1日 至令和元年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自令和2年1月1日 至令和2年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△70,237	24,392
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	△523	△731
為替換算調整勘定	△1,503	△2,251
その他の包括利益合計	△2,027	△2,983
四半期包括利益	△72,265	21,409
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△72,265	21,409

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(税金費用の計算方法の変更)

税金費用の計算は、従来、見積実効税率により税金費用を算定しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、税金費用をより適切に四半期連結財務諸表に反映するため、原則的な方法に変更することといたしました。なお、当該会計方針の変更による前第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であるため、遡及適用は行っていません。

(セグメント情報等)

当社グループは、ソフトウェア事業の単一セグメントであり、記載を省略しております。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染拡大の影響に関する会計上の見積り)

緊急事態宣言が解除された5月下旬以降、新型コロナウイルス感染症による影響は、徐々に、小さくなっているものと考えられますが、感染拡大の第2波が来ることも考えられており、その収束時期を見込むことは困難であります。

当社グループは、新型コロナウイルスの感染状況が、当第2四半期連結期間末の状況から悪化しないとの前提で、前連結会計年度末の仮定を継続して使用し、繰延税金資産の回収可能性及び固定資産の減損等の会計上の見積りを行っております。

なお、新型コロナウイルス感染症の収束時期は不透明であり、感染拡大の第2波が到来する等、影響が長期化した場合には、上述の前提に依拠できないことになり、将来における財政状態、経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。